

「第 1 回 全国ムスリマミーティング
ームスリム 2 世の教育について考える: 中学・高校時代をいかに過ごすかー」

申請者: 総合政策学部 2 年 富岡 花
指導教員: 総合政策学部教授 奥田 敦

1. 概要

中高生ムスリムの教育について知識と経験をもつムスリマ(以下「ムスリム」と記す際は男女双方のイスラーム教徒を、「ムスリマ」と記す際は女性の信徒を意味する)を全国(福島、横浜、甲府、名古屋、岡山、福岡)からSFCに招き、彼女たちの経験を共有し教育の課題、解決策について議論を行った。また申請者も含めムスリム 2 世の学生、社会人も登壇し自らの中学、高校時代の経験についても話をした。ムスリマたちは家庭、学校、地域社会とのかかわりの中で、子どもたちをどのように育て、またどのような課題を抱えているのか。当事者であるムスリマとムスリム 2 世の視点及び学術的な視点の双方から議論を行うことで、ムスリム 2 世の中学、高校時代における教育の現実を把握し、彼らの教育が直面している課題の解決に向けて活発な議論を行い、共同声明の形でそれを発表した。またこの活動は、神奈川県大学発政策提案制度「ムスリム接遇人材育成プログラムの開発と実施」の一環として実施された。

2. 当日のプログラム

- ・日時: 2017 年 2 月 11 日(土) 11:20-19:30
- ・場所: 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス タウ館2階ロフトスペース
- ・登壇者: ムスリマ 7 名、ムスリム 2 世 5 名、奥田敦教授(他に運営としてイスラーム研究・ラボ所属研究員と奥田敦研究会所属学生らが参加。詳細は別紙参照)。
- ・タイムテーブル

11:20 開会、挨拶
<第 I 部>
11:25 基調講演
「ムスリムという人の在り方: 青年期のアイデンティティ形成にふれつつ」
<第 II 部>
12:10 報告と討議 「子供たちの学校生活における課題」
13:20 昼食、ズフル礼拝
<第 III 部>
14:30 報告と討議 「家庭教育について」「内面的価値観の問題」
16:30 休憩、アスル礼拝、奥田敦研究会活動紹介、マグリブ礼拝、写真撮影
<第 IV 部>
17:45 共同声明作成
19:30 閉会

◆講演者・報告者・討論者
(登壇順・敬称略) ◆

●奥田 敦
◆サラ クレシ好美
◆サラ 竹内千香子
◆サキーナ 高橋智子
◆サバー 藤岡裕子
◆ハニーファ 富岡貴子
◆ゼフラ 金子佐保
◇クレシ愛民
◇竹内吾武留
◇ハディハーニ
◇羅者アルサラーンモハメッド
◇富岡 花
□今村サアラ

* ●司会、I 部の講演者、◆ II 部、III 部の報告者、◇ III 部の報告者、□ 討論者

3. プログラムの内容

はじめに、奥田敦教授からは、「ムスリムという人の在り方：青年期のアイデンティティ形成にふれつつ」というタイトルで基調講演を行っていただいた。途中エリクソンのアイデンティティ論に対する批判的考察を交え、最後はクルアーンのルクマーン章を引き、イスラームの教育において、親自身がまず理解し、実践し、子供に伝えなければならないことは何なのかをお話しいただいた。

次に、II部では「子供たちの学校生活における課題」というテーマで登壇者からの報告とディスカッションを行った。学校給食の話では、豚肉など食べられないメニューがある場合は、過剰な権利の主張をするのではなく、学校とコミュニケーションをとり、自分たちで工夫をするべきだと言う声が相次いだ。登壇者の中には、午前3時に起きてお弁当などの準備をしてきたというお母様もいらした。

時間の都合上、もともと別々に行う予定だった「家庭教育について」と「内面的価値観の問題」を昼食後にまとめて行った。親の立場からは、子供たちをアッラーからの預かりものとして捉えるため、それが彼女たちのプレッシャーになり、押しつけ的な態度を子供たちにとるようになるのではといった声が聞かれた。宗教を強制するのは子供たちの反発を招くため逆効果であるという意見は、登壇者全員の賛同を得ていた。

そして、子供の立場からはムスリム2世の大学生、社会人が自らの経験について話を行った。申請者は、アイデンティティの葛藤やイスラームとの向き合い方における変化などについて話をした。あるときから生じた、小さい頃には当たり前のように行っていた礼拝などへの疑問、そして大学入学後の勉強を通じて得られた考え方の変化などである。他の登壇者からは、信仰や教えの意味も教わらない段階で親や周りから表面的なルールのことばかり言われるのはつらかったという話があった。イスラームが好きでもないのにルールのことを言われても「1ミリも心は動かなかった」そうだ。

最後に、「ムスリム中高生に対するイスラーム教育 12 箇条」という共同声明文を議論の末に作成し、奥田敦教授の名前でとりまとめ後日プレスリリースすることを決定して閉会することができた。共同声明文は 12 の項目から成り、その中には、「宗教に強制があってはならない」などの教えのレベルと、「強制的なイスラーム教育は反発・反抗を招き、ひどい場合には、イスラーム嫌いにまでつながっている事実が存在することを十分に認識する」といった当日の報告、議論を踏まえた現実のレベルの話、双方が盛り込まれた。また、仲間づくりのための交流の場の重要性、そして冒頭に奥田教授から説明があったクルアーンのルクマーン章の話も示された。

4. 今後の課題と展望

共同声明文は2月27日付でSFC研究所からプレスリリースされた。全文は脚注のURLを参照いただきたい¹。神奈川県と奥田敦研究会のHPでも後日公開される予定である。今後は、個人が特定されないような形式で議事録をとりまとめ、奥田教授監修のもと、湘南藤沢学会からリサーチメモとして出版できるように作業を進める。またこの成果については来年度のORFで発表する予定だ。

今回の活動から得た申請者の新たな発見についても述べておこう。まず感じたのは高等教育の大切さである。特に、イスラームの教えの意味をきちんと教わってこなかった、あるいは教えられなかったという登壇者の話からは、子供たちが使い慣れている言語で学べる環境の重要性を痛感した。

また、今回の会は親と子、双方にとって気づきの場になったのではないだろうか。面と向かっては言いにくいのが、この場だからといって話をした登壇者もいた。この会は、単に課題について議論を交わすだけでなく、親と子がお互いを知り合う貴重な機会にもなったと思う。

加えて、ムスリム2世の発表者はそれぞれ全く異なるバックグラウンドをもっており、発表の内容も三者三様であったが、それでも共通している悩みや葛藤などもあり、とても興味深かった。卒業論文の執筆に向けて、もっと多くのムスリム2世(その中でも今の中学、高校生)の話をきいてみたい。そして研究を進めるとともに、是非来年度以降も、こうした会を継続的に実施できるようにしていきたい。

5. 謝辞

本活動の実施に際し、ご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。なお、本活動の予算は、2016年度湘南藤沢学会研究助成基金、その他の研究助成より執行されました。

¹ https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/press_file/20170227_islamlab.pdf